

No.15

事業名	高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」奄美大島公演を通じた高校生ボランティアの育成
事業の特徴	二つの離れた地域の高校生が共同でミュージカルを上演することを通じた青年のボランティア育成と地域の活性化支援

実施機関名	奄美市教育委員会生涯学習課 [龍郷町教育委員会と連携]
連絡先	〒894-8555 鹿児島県奄美市名瀬幸町19-21 TEL 0997-52-1111 FAX 0997-53-9501 URL <a href="http://www.city.amami.lg.jp/amami08/amami02.asp">http://www.city.amami.lg.jp/amami08/amami02.asp</a>
事業規模	市区町村
事業主体	教育委員会
事業のテーマ分野	文化振興（演劇）

## 1 事業の概要

現在、奄美市・龍郷町のそれぞれの教育委員会内に、体験活動の指導者及びボランティアの派遣を主な業務とする機関を「青少年の体験活動・生涯学習ボランティアセンター」として位置づけ活動している。

当初の目的であったボランティアの育成については、コーディネーターの不在や職員の事務量増大、各種事業の縮小により実践に至っていないのが現状であった。

しかし、これまで個々の高校生は、市・町または子ども会などの行事や事業にボランティアと



大隅の高校生歓迎のフラッグ



稲穂づくり（秋名集落の伝統）

して積極的に関わっており、今回、奄美市・龍郷町の二地域でのミュージカル公演を契機に、住んでいる地域は違うが同じ高校に通う生徒たちに、地域の枠を超えたボランティア体験させることにより、その育成と拡充を図った。

## 2 事業の趣旨、目的

平成20年3月の中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」において、NPO、民間業者等と行政の連携については、行政が民間団体との積極的な連携を進めることが大切であるとされている。また、少子化、情報化、経済不況等の背景から地域社会自体が内包していた教育力を向上させる方策について具体的に取組を進めることが急務となっている。

奄美市・龍郷町の両ボランティアセンターそれぞれにおいてボランティアの振興方策などの検討を重ねてきたが、具体的な取組みには至っていないのが現状であった。従来から、両ボランティアセンターでは、奄美の特色ある地域社会形態であるシマ（集落）を中核として、地域へ貢献する人づくり・まちづくりを継続するためのボランティアの派遣を中心に考えていた。

そんな折、平成21年8月に鹿屋市青少年劇団（鹿屋市が中心となる高校生）による高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」が両自治体で公演されることとなった。物語は奄美が舞台で、当初の企画段階から奄美の地元高校生の出演が計画されており、特別出演も決まった。

この機会に両ボランティアセンターの役割を熟考し、再起動させることを前提に行政レベルで4つの柱を確認し合った。

- ① 高校生のボランティアを育成する機会として位置づけること。
- ② 市や町を越えたまちづくりに貢献する高校生ボランティアを育成すること。
- ③ 各地域における多様かつ増大する市民の学習ニーズに応え、継続的に学習活動を支援できるボランティアのシステムを再構築するきっかけとすること。
- ④ 民間団体等との積極的な連携を進めることにより、共に人材の確保につなげていくための事業として位置づけること。

## 3 事業の内容

### （1）学習の内容

#### 事前体験学習の意義や学習機会の提供について

ミュージカルの奄美大島公演という一つの事業の実施に向け、青年会議所等の地域の有志とボランティア活動を行っている団体が実行委員会を組織した。その中で、ボランティアのポジションを、単なるお手伝いではなくスタッフの一員だという認識を共有することにした。

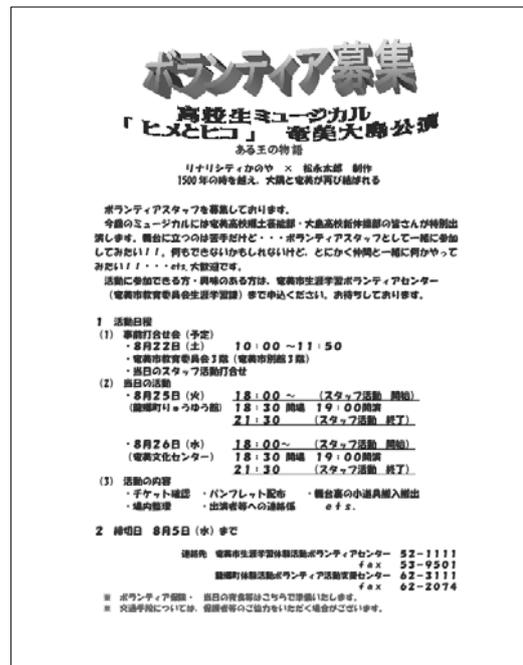
舞台に立つのは苦手だが、ボランティアスタッフとして一緒に参加したい、仲間と一緒に何かやりたいという意欲を持つ高校生を幅広く募集した。自分たちもスタッフの一員であるという共通認識によってボランティアに対する意識が高まり、また、高校生ボランティアの力が大きな感動の舞台を生み出す原動力であるということ、肌で体感できるようにした。

さらに、本事業は今回限りの取組みではなく、継続して人材を育成する第一歩として位置づけ

ることを確認し合った。そして、これからの地域づくりには、高校生ボランティアの力が不可欠であるとし、ボランティアの意義・地域づくりについても考える場を設けた。



ヒメとヒコ開催ポスター



ボランティア募集チラシ

## (2) 学習成果を活用したボランティア活動等の内容及び推進の方法

これまでのボランティア活動は、市・町や子ども会などの事業や行事で個々が手伝いのボランティアとして参加してきたが、今回の事業では、単に市民・町民のためだけではなく、高校生ボランティア自身が、指導者となる先輩や多くの人と関わりつながることで、自分の将来像を見つめ直したり様々な考え方や方法について学べる機会として位置づけた。

また、同年代の高校生が真剣に演じる本物の舞台に、リハーサルの段階からそれを支えることで関わらせ、ボランティアを通してまちづくりに参画したいという意識の向上や、自分たちもまちづくりに貢献したいという意欲が芽生えるきっかけとなる体験をさせることができた。



事前計画作成会議（実行委員会）



出演者と高校生ボランティア

### (3) 推進体制等の仕組み

ミュージカル公演自体は鹿屋市青少年劇団の主催事業であるが、「ヒメとヒコ実行委員会」を奄美大島青年会議所・奄美市教育委員会・龍郷町教育委員会の代表を中心に結成したことにより、ボランティアに対する願いや今後のボランティア活動に向けても意見を交わす機会となった。

組織として今後もつながっていくことが大切であることから、メールを活用した「ヒメとヒコグループ掲示板」を作成し、それぞれの実行委員が情報をタイムリーに共有できるようにした。

このことにより、当日までの日程とボランティアの育成についてや、当日のボランティア必要人数や活動内容を掲示板で確認し合うことができた。さらに、より多くの異年齢のボランティアと高校生ボランティアが交流する場をセッティングすることができた。

## 4 成果と今後の取組

今回は、行政だけでなく地域住民（有志で行っている団体や個人）がボランティアを待つという姿勢からボランティアを育成していこうとする方向へ意識の向上が図られたことが大きな成果である。

大隅の高校生が出演するミュージカルの公演に当たり、出演者、出演者を支えるスタッフ、それをサポートしていく奄美の高校生ボランティアの全員が協力し合うことで観客を感動させることができた。

実行委員会のスタッフ一人一人が、タイムリーに情報を共有できたことでボランティアを育成するという意識を保持しながら高校生に接することができた。

また、ミュージカルの出演者の通し稽古の中で同年代の高校生が真剣に舞台に立ち、演じる姿を見て、ミュージカルのスタッフとして高校生ボランティアが自分たちを見つめ直し、自分たちができることがボランティアであり、全力で支えようとする意識を育てられたことは今後のボランティアへの参加意識を高めることになった。

さらに、様々な職業・立場の異年齢の方々と接することで、人と人とのネットワークの大切さを知り、つながり交流することの喜びを体験することにつながった。

今回のボランティア活動で、奄美市内の高等学校のボランティア活動に対する理解が深まり、現在、各種催事への参加要請にも積極的に応えている。

【執筆者の職・氏名】 奄美市教育委員会生涯学習課 指導主事 尾ノ上 義直